

原 著

看護学生が手術室見学実習を 意図的に臨むための教育的試み：第3報 —手術室見学実習記録用紙を用いた学習効果—

昭和大学保健医療学部看護学科

大 滝 周* 大木 友美 萩原 綾香

抄録：看護学生が生体侵襲を受ける患者を理解するための1つの方略として、手術室実習の有効性が報告されている。しかしながら、看護学生にとって手術室での実習は初めて見るものばかりであるため、学習の視点を明確にすることができず重要な場面を見逃す、また看護師の説明内容を理解することが難しいなどの課題を抱えている。このような看護学生が置かれた状況に対し、筆者らは看護学生が意図的な思考で実習に臨むことができるように手術室見学記録用紙（以下、記録用紙）を作成し、記録用紙を導入した。そこで本研究では、記録用紙の活用状況および看護学生が感じた記録用紙を用いた手術室見学実習の効果について調査した。調査方法は、106名の看護学生に対して、記録用紙の活用に関する自記式無記名質問紙調査を行った。分析方法は、単純集計および質的帰納的分析を行った。本研究は筆者らが所属する機関の倫理委員会の承認を得た（no. 214）。看護学生106名中77名（回収率73%）から回答を得た。本研究の結果より、看護学生の記録用紙の活用状況として、77名中74名（96%）の看護学生が肯定的な回答を表す〔とても使いやすかった〕〔使いやすかった〕と回答し、看護学生が記録用紙を肯定的に捉え、活用していたことが明らかとなった。また、記録用紙を用いた実習に関する自由記述から得られた記述内容より、190コード、35のサブカテゴリー、11のカテゴリーを抽出され、『看護学生が感じた効果』『看護学生が感じた記録用紙のメリットとデメリット』『看護学生が感じる手術室の環境』の4つのテーマが明らかとなった。

キーワード：周手術期実習、手術室実習、看護学生、実習記録用紙

緒 言

2002年に厚生労働省の「看護学教育の在り方に関する検討会」では、基礎看護教育における臨地実習に対し、看護実践能力を培うためにきわめて重要であり、看護学生が大学内の授業において学んだ知識・技術・態度の統合を図りつつ、看護援助の方法を取得するための過程である¹⁾と報告している。すなわち臨地実習は、看護学生が看護実践能力を獲得するために看護基礎教育の中で重要な役割を占めているといえる。看護学教育カリキュラムにおける成人看護学実習（急性期）では、急激な生体侵襲を受ける患者やその患者への看護援助を理解するために、手術を受ける患者に焦点を当て看護展開する方法がとられている場合が多い。医療の進歩や地域支援の拡充等により手術を受ける患者が早期に社会復

帰できるようになってきた社会背景の中で、看護学生らは急激な生体侵襲を受ける患者を短期間で理解しなければいけない状況に置かれている。先行研究では、成人看護学実習を行う看護学生は実習に対し強い不安を感じ²⁾、手術侵襲や麻酔侵襲により患者の状態が日々変化することに対する患者理解のむずかしさ³⁾や、多面的にアセスメントすることへの困難感⁴⁾を抱きながら実習を行っていると言われている。このような環境の中で、看護学生が生体侵襲を受ける患者を理解するための1つの方略として手術室実習の有効性⁵⁾が報告されている。また手術室実習の効果として、看護学生は手術が及ぼす侵襲を直に見て感じるにより、手術に及ぼす侵襲を現実のものとして理解することができるという知識レベルの学習経験がもたらされること⁶⁾や、看護学生自身が術中に観察した事柄から術後の援助の観察を行う

*責任著者

必要性が理解できる⁷⁾ことが挙げられている。しかしながら、看護学生にとって手術室での実習では初めて見るものばかりのため、学習の視点を明確にすることができず重要な場面を見逃す、また看護師の説明内容を理解することが難しいなどの課題を抱えている。このような看護学生が置かれた状況に対し、筆者らは看護学生が意図的な思考で実習に臨むことができるような手術室見学記録用紙（以下、記録用紙とする）を作成⁸⁾し、記録用紙を導入した。

そこで本研究では、記録用紙を用いた手術室見学実習（以下、実習とする）が看護学生に及ぼす学習効果について明らかにすることを目的とした。

研究方法

本研究の調査期間を2013年9月～2014年4月とし、成人看護学実習（急性期）の成績が確定した後（実習終了約1か月後）、記録用紙を用いて実習を行った看護学生に自記式無記名質問紙調査を実施した。

1. 調査対象者

看護系A大学の成人看護学実習（急性期）成績が確定した後の看護学生106名とした。

2. 調査内容

1) 自記式無記名質問紙の調査項目

(1) 記録用紙の活用状況

記録用紙の活用状況に対し、〔とても使いやすかった〕〔使いやすい〕〔使いにくかった〕〔とても使いにくかった〕の4件法で尋ねた。

(2) 記録用紙を用いた実習に関する記述

記録用紙を用いた実習について自由記述欄に自由に記述させた。

2) 看護学生が実習で用いた記録用紙

本調査において用いられた記録用紙とは、看護学生らが自ら意図的に考え、手術室で行われる実習を臨むことができるように作成された⁸⁾ものである。記録用紙は、A3用紙1枚におさめられており、実習における見学や観察ポイントが一目で理解できるように可視化され、見学や観察ポイントをチェックする部分と学びを記述する部分で構成されている。

3. 分析方法

分析対象は、本調査に同意が得られた106名中77名とした。記録用紙の活用状況に関しては、Microsoft Excel 2010を用いて単純集計を行った。記録用紙を用いた実習に関する分析は、質的帰納的分

析法とした。自由記述の内容に関する記録を列挙した後、記述内容を繰り返し熟読し、文章の意味内容をそこなわないように意味が読み取れる文節を分析単位とし、コードとした。意味内容が類似するものを集め抽象度を上げ、サブカテゴリー、カテゴリーの抽出を行った。質的帰納的分析は、信頼性と妥当性を確保するために筆者らで複数回検討を行った。

4. 倫理的配慮

調査対象者らに口頭で研究の概要を説明し、参加は自由意志であること、参加の有無が学業成績に影響しないこと、個人のプライバシーは厳守されること、研究結果が公表される場合においても個人が特定されることがないことを説明した。同意は、自記式無記名式質問紙の提出を持って承諾を得たことにした。本調査は筆者らが所属する機関である倫理委員会の承認を得た（no. 214）。

結果

1. 看護学生の活用状況

看護学生106名中77名（回収率73%）から回答を得た。看護学生の記録用紙の活用状況として、〔とても使いやすかった〕33名（43%）、〔使いやすい〕41名（53%）、〔使いにくかった〕1名（1%）、〔とても使いにくかった〕0名、無回答2名（3%）であった。

2. 看護学生が感じた記録用紙を用いた実習の効果について

記録用紙を用いた実習に関する自由記述から得られた記述内容より、190コードが抽出された。徐々に抽象度を高め分析した結果、35のサブカテゴリー、11のカテゴリーが抽出された。カテゴリーは、3つのテーマ『看護学生が感じた効果』、『看護学生が感じた記録用紙のメリットとデメリット』、『看護学生が感じた手術室の環境』に分類された。

以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >, コードを「 」で示す。

1) 『看護学生が記録用紙を用いることで感じた効果』(表1)

看護学生らは、記録用紙を用いる実習を<見学しやすくなる>や「どのようなことに注意しながら見学すればいいのかということがわかった。」というように<見学するポイントが明確>になったと感じており、【手術室見学実習がしやすい：15コード：

表 1 看護学生が記録用紙を用いることで感じた効果

カテゴリー	サブカテゴリー	コード (抜粋)	コード数	(%)
手術室見学実習がしやすい 【15コード：7.9%】	見学しやすくなる	見るべき点がわかって見学しやすかった。	4	2.1%
	見学するポイントが明確	どのようなことに注意しながら見学すればいいのかということがわかった。 学生が行うべき、観察すべき点が明確になっていて、点が良い点があった。	11	5.8%
見学が効果的だと感じる 【13コード：6.8%】	効果的な見学ができた	選択形式だったため、手術中・スムーズに学習することができた。 (何を観察すればいいのか、わかりやすかったため。) 効果的に見学することができたと思った。	7	3.7%
	学びを得た	手術見学では学んだことが膨大にある。 (真っ白の紙に学んだことを書くよりも) 観察するポイントがわかり学びが深まった。	6	3.2%
手術の状況が理解しやすい 【28コード：15.7%】	手術の流れがわかりやすい	手術の手順通りに記録が配置されていたので、手術の流れを把握できた。	5	2.6%
	視覚的にわかりやすい	知っておくべきことが見てすぐわかった。	4	2.1%
	チェック式でわかりやすい	チェックリストで何を確認すればよいかわかりやすかった。	4	2.1%
	理解しやすい	項目別になっていたので、理解しやすかった。 実際に現場に行ったとき、何が行われているのかが理解しやすかった。	10	5.3%
事前に実習の準備ができる 【6コード：3.2%】	看護師に質問しやすい	チェック項目があったため、指導者に何を質問すればいいのか分かった。 記録用紙に沿って手術が進んでいき、担当看護師に質問することができた。	5	2.6%
	事前に観察ポイントがわかる	どこを注目して見学すればいいのか分かった。 術前にどのようなことに注意して観察すればよいか意識できた	5	2.6%
観察する視点が明確 【33コード：17.4%】	直前の学習に役立つ	直前の学習時に役立った。	1	0.5%
	観察する点がわかりやすい	何を観察すればいいのか、わかりやすかった。 観察点があるためわかりやすかった。	7	3.7%
観察する視点が明確 【33コード：17.4%】	着眼点がわかりやすい	見るポイント、考えるポイントが明記されていた。 どこをみればいいのか分かった、初めて実習する私たちにとってよかった。 チェック項目があったため、どこに注目すればいいのか分かった。	19	10.0%
	活用しやすい	手術室見学で見ると項目が細かく記載されていたので使いやすかった。 手術室で観察する視点が細かく記載されていたので使いやすかった。	5	2.6%
看護援助につなげる 【5コード：26%】	看護師の役割を理解できる	看護師の役割について理解できる。	2	1.1%
	注意して観察できた	(見なくてはいけないポイントが示されていたので) 注意して観察することができた。 またこの用紙を見る「じゃあ、一緒にやってみる」と具体的に看護援助をすることができた。	2	1.1%
看護師が指導に活用する 【17コード：8.9%】	具体的な看護援助ができた	看護師が「細かくてわかりやすい」といついていた。 看護師もやりやすかったと思う。	3	1.6%
	看護師も指導しやすい	看護師もやりやすかったと思う。	4	2.1%
看護師が指導に活用する 【17コード：8.9%】	看護師が活用していた	手術室看護師が手術直接この用紙をもとに指導してくださった。 看護師さんもその紙を見て何を説明すればよいか確認していた。	7	3.7%
	看護師と一緒に活用した	(オペ室のナースも) 一緒に見ながら、わからない点を教えてくれてよかった。 NSと取るべき情報が共有できる。	3	1.6%
活用する上での看護師への要望	活用する上での看護師への要望	オペ室の外回りナースが教えてくれて全てを埋めることができたので教えていただけたらよい連携が必要 ※ 質的帰納的分析から得られた『看護学生が記録用紙を用いることで感じた効果』について示す。	3	1.6%

7.9%】と捉えていた。また、「選択形式だったため、手術中・スムーズに学習することができた。」と「効果的な見学ができた」、「観察するポイントがわかり学びが深まった。」と「学びを得た」と看護学生らは【見学が効果的だと感じる：13コード：6.8%】ことが明らかとなった。記録用紙を「手術の流れがわかりやすい」「視覚的にわかりやすい」「チェック式でわかりやすい」「理解しやすい」「看護師に質問しやすい」というように、手術室の【状況を理解しやすい：28コード：15.7%】内容だと感じていた。看護学生らは記録用紙を実習中だけでなく、「事前に観察ポイントが分かる」「直前の学習に役立つ」と【事前に実習の準備ができる：6コード：3.2%】と事前学習として活用していた。「観察する点がわかりやすい」「着眼点がわかりやすい」「活用しやすい」「看護師の役割が理解できる」というように【学習しやすい：33コード：17.4%】記録用紙だと感じていた。知識面だけではなく、「注意して観察できた」「具体的な看護援助ができた」というように手術中の【看護援助につなげる：5コード：2.6%】ことができていた。看護学生らは「看護師も指導しやすい」「看護師が活用していた」「看護師と一緒に活用した」と感じ、さらに「活用する上での看護師への要望」を抱いており、【看護師が指導に活用する：17コード：8.9%】効果があると感じていた。

2) 『看護学生が感じた記録用紙のメリットとデメリット』(表2)

看護学生らが、記録用紙を「書くことが明確化されていてわかりやすかった」ように「記述すべき内容が明確」で、「緊張していても書ける」というように「記述しやすい」、また「その場で記録がほとんど終わるので良かった」と「記録の負担が少ない」と記録用紙を【記述しやすい：17コード：8.9%】を感じていた。一方「用紙のサイズが使いづらい」、「たくさん書けない」ため「記入欄が狭い」、術前の部分は「記述しにくい」と記録用紙を【記述しにくい：21コード：11.1%】と感じていた。また看護学生らは「記録用紙を埋めることに集中してしまいそうになる」ため「記録に集中してしまう」、「感想欄が小さいので、発展的な内容まで気づけた人には窮屈かもしれない」と「自発的な気づきが減る」、
「記録用紙に欠点を感じる」などの使用する上での

【デメリットを感じる：16コード：8.4%】ことが示された。また、「他に興味があることを書くことができる場所を設けてほしかった」ため「記述欄がほしい」、
「内容の追加を希望する」、「A3ではなく、A4が2枚だと書きやすい」と「様式の改善を希望する」など【記録用紙への要望を抱く：14コード：7.4%】ことが明らかとなった。

3) 『看護学生が感じた手術室の環境』(表3)

看護学生は、「緊張しやすい」や「手術室という場所のイメージが付きにくかった」というように「イメージができない」と感じており、手術室を【非日常的环境：5コード：2.6%】と感じていた。

考 察

1. 記録用紙を用いた実習が看護学生に及ぼした効果

1) 『看護学生が感じた学生側の効果』について

看護学生の記録用紙の活用状況として、否定的な回答を示す「使いにくかった」あるいは無回答に対して、77名中74名(96%)の看護学生が肯定的な回答を示す「とても使いやすかった」「使いやすかった」と回答しており、看護学生が記録用紙を肯定的に捉え、活用していたことが明らかとなった。これらは自由記述より抽出された【手術室見学実習がしやすい】【見学が効果的だと感じる】というカテゴリと併せて考えると、看護学生らは、手術室での実習において記録用紙を肯定的なものとして活用されていたことが推察できる。

看護学生は手術室での実習に対し、手術室で今起きている状況を理解できない上、いつもとは違う実習環境に対してどのように実習を展開すればよいのか戸惑い、困難感を抱く⁹⁾と報告されているが、本調査では看護学生らは記録用紙を「視覚的にわかりやすい」、
「手術の流れがわかりやすい」や「看護師に質問しやすい」と、記録用紙を用いることで【手術の状況を理解しやすい】と感じていた。この要因として、本記録用紙が手術室見学実習を効果的に実施するために作成した手術室見学実習資料をもとに作成⁸⁾されていたことが挙げられる。それは、手術室見学実習資料の効果として、手術室見学実習資料が簡潔明瞭に視覚的に表現されていることで、手術室の経験がない看護学生でも容易に手術の流れを想像できること¹⁰⁾が示唆されており、本記録用紙に

表 2 看護学生が感じた記録用紙のメリットとデメリット

カテゴリー	サブカテゴリー	コード (抜粋)	コード数	(%)
記述しやすい 【17コード：8.9%】	記述すべき内容が明確	書くことが明確化されていてわかりやすかった。 どういう点に着目して書けばよいかわかりやすかった。	7	3.7%
	記述しやすい	時間の流れで記入できるようになっている。 体位や麻酔の挿入部位を書くときに、実際に図がのっていて、書きやすかった。 緊張していても書ける。	8	4.2%
	記録の負担が少ない	その場で記録がほとんど終わるのが良かった。	2	1.1%
	記入欄が狭い	感想（学び）を書く欄が小さい。 たくさん書けない。 欄が小さい。	12	6.3%
記述しにくい 【21コード：11.1%】	用紙サイズが使いづらい	A3サイズで折り曲げるところまで印刷があって記入しにくかった。 用紙サイズが大きい。	7	3.7%
	術前の部分は記述しにくい	術前に書くところは、朝一のオペだと患者さんとほとんど接することができず書くのが難しい。	2	1.1%
デメリットを感じる 【16コード：8.4%】	記録に集中してしまう	記録用紙を埋めることに集中してしまいそうになることがあった。	3	1.6%
	自発的な気づきが減る	視点が記録用紙の身になってしまう為、自分で考えるのが少なくなってしまった。 感想欄が小さいので、発展的な内容まで気づけた人には窮屈かもしれない。	7	3.7%
	記録用紙の欠点を感じる	項目が多いように感じる どこにチェックをつけていいのかわかりにくいところがあった。	6	3.2%
	記述欄がほしい	他に興味があることを書くことができる場所を設けてほしかった。 体温管理の重要性とかも話してくれたので、メモできるところが少しあるとよかったです。	8	4.2%
記録用紙への要望を抱く 【14コード7.4%】	内容の追加を希望する	「手術終了～退室」のところにある<挿入物>の図に背中側の図があるとよい。	2	1.1%
	様式の改善を希望する	各部分とチェックする部分を分けるといいのでは？ A3ではなく、A4が2枚だと書きやすい。	4	2.1%

※質的帰納的分析から得られた記録用紙を用いた実習で『看護学生が感じた記録用紙のメリットとデメリット』について示す。

表 3 看護学生が感じた手術室の環境

カテゴリー	サブカテゴリー	コード (抜粋)	コード数	(%)
非日常的环境 【5コード：2.6%】	緊張しやすい	手術室は緊張しやすい環境だった。 なかなか術中看護師さんに話しかけづらい。	2	1.1%
	イメージできない	手術室の慣れない環境（でも何を見たらいいのかわかりやすいと思った。） 手術室という場所のイメージが付きにくかった。 初めての手術室でわからないことも多かった。	3	1.6%

※質的帰納的分析から得られた記録用紙を用いた実習で『看護学生が感じた手術室の環境』を示す。

においても手術の流れが看護学生の視点で分かりやすく、視覚的に表現されていたことによって特殊な環境¹¹⁾と表現される手術室での状況を理解することができたと考えられる。また看護師に質問しやすい>と感じており、看護師に質問することで状況の理解が促進されていた可能性もある。

看護学生らは記録用紙を実習中だけではなく【事前に実習の準備ができる】と事前学習に活用していた。手術室見学実習資料¹⁰⁾でも事前学習のツールとして使用されており、本調査でも手術室見学実習資料の効果と同様に事前学習をする上で具体的に何をすればよいのか考え、ポイントを絞った学習できるツールとなっている可能性がある。

看護学生が感じた効果として分類したコードの中で、カテゴリ【観察する視点が明確】は190コードの17.4%を占めており、最も多いコード数となっていた。米田らは、看護学生らが抱く手術室のイメージは漠然としており、手術看護や看護師の役割を理解することは難しい¹²⁾と報告しているが、本調査の結果では記録用紙を<観察する点がわかりやすい><着眼点がわかりやすい>と感じており、記録用紙が手術室での必要な観察点や着眼点などの見学する視点が明確に表現されていたことといえる。これらにより、本記録用紙が看護学生にとって学習しやすいツールとなっていたことが推察される。また手術室における学習視点を具体的に示し、看護学生が手術室での実習を行う効果として、先行研究で学生の内発的動機付けの機会になっている可能性⁶⁾が示唆されており、記録用紙を用いることで手術室での実習に対する内的動機づけに繋がっている可能性が考えられる。

これまでの先行研究では、手術室での実習は看護基礎教育では専門性が高すぎる領域のため、少なくとも現状では見学に留まることが適切ではないかと考える¹³⁾という意見や学生が手術見学をしている状況は、いわば、手術室におけるチーム医療の蚊帳の外であり、主体的に手術室における手術看護に関わることは難しく¹⁴⁾、見学が主となり結果として実践的な実習を行うことは不可能である¹⁴⁾という意見が報告されているが、本調査では記録用紙を用いた実習を通して看護学生らが<注意して観察できた><具体的な看護援助ができた>と手術中の【看護援助につなげる】ことができたことが明らかとなっ

た。これらは本記録用紙を用いた実習が、見学だけに留まらず実践的な実習に繋がったといえ、看護学生が自ら発展的な学習を促進するきっかけとなっている可能性が推察できる。

本調査では、【手術室見学実習がしやすい】【観察する視点が明確】や【手術の状況理解しやすい】など肯定的なカテゴリが多く抽出されたが、その一方で看護学生が感じる手術室の環境として先行研究¹³⁻¹⁶⁾で報告されているように<緊張しやすい>や<イメージできない>と感じており、看護学生にとって手術室は【非日常的環境】であることも明らかとなった。

以上をまとめると、手術室での実習において記録用紙が看護学生に肯定的なものとして活用されていたことが明らかとなった。本記録用紙が看護学生にとって記録用紙が学習しやすいツールとなり、実習が見学だけに留まらず実践的な実習に繋がっており看護学生が自らの発展的な学習を促進するきっかけとなっていることが推察される。記録用紙が事前学習および実習での見学や看護援助で活用されたことで、いまままでイメージしがたかった手術室で提供されている看護を概念的なレベルから具体的な実践レベルへと学びの深化となっている可能性が示唆された。

2) 『看護学生が感じた指導者側の効果』について

看護学生が指導者側に感じた効果として、【看護師が指導に活用する】効果があると感じていた。看護学生らが手術室という特殊な環境の中で、自分の居場所もわからず常に緊張の中¹¹⁾にあり、手術室看護師に対して手術が進行している中での声をかけるタイミングがわからない¹⁵⁾ことや思っていることがうまく伝えられない¹¹⁾などという状況の中で、効果的な教育のために手術室看護師のリアルタイムでの指導の重要性¹¹⁾が示唆されている。本調査の<看護師も指導しやすい><看護師が活用していた><看護師と一緒に活用した><活用する上での要望>という結果より、手術室看護師が看護学生に対して教育的な関わりをしていたことが推察される。

手術室での実習は、看護学生と指導者間の専門的知識や患者を支援する情報の差より相互関係が成立しにくい可能性¹⁶⁾が示唆されているが、記録用紙を手術室看護師と一緒に活用することで記録用紙という媒体を通して目の前で行われている事柄を共通認識し、さらに相互関係の構築に繋がる可能性が考

えられる。また筆者らが本記録用紙を用いた指導が実習指導者に及ぼした効果¹⁷⁾について調査した際、『手術室看護師が感じた指導者の効果』¹⁷⁾だけではなく、『手術室看護師が感じた学生側の効果』¹⁷⁾があることが明らかとなった。本調査においても、『看護学生が感じた学生側の効果』だけではなく、『看護学生が感じた指導者側の効果』があることが示唆されており、看護学生と指導者は互いに相手の立場のことを考えながら実習を行っている推察された。

以上をまとめると、看護学生が指導者側に感じた効果として【看護師が指導に活用する】効果があると感じており、手術室看護師が看護学生に対して教育的な関わりをしていたことが推察された。また、記録用紙を手術室看護師と一緒に活用することで記録用紙という媒体を通して目の前で行われている事柄を共通認識し、さらに相互関係の構築に繋がる可能性が考えられる。

2. 看護学生が感じた記録用紙のメリットとデメリットについて

看護学生にとって手術室での実習とは、強い緊張を伴い過去に体験したことのない治療場面を直視する衝撃⁹⁾や声をかけるタイミングがわからない¹⁵⁾と言われている環境であり、さらに手術室は専門性が高い領域のため手術に関連する特殊な専門用語が多く使用されるため、看護学生が正しく聞き取れないまたは聞き逃すなどの問題を抱えている可能性が推察できる。しかし本調査結果では看護学生らが記録用紙を「書くことが明確化されていてわかりやすかった」、「緊張していても書ける」とく記述すべき内容が明確で【記述しやすい】記録用紙と捉えており、看護学生自身が学ぶべき事柄を理解しながら実習を進めていた可能性が推察できる。また看護学生は数時間の手術室での実習の直後には患者の術後合併症の観察や術後の看護援助が求められる。記録用紙を用いた看護学生は「その場で記録がほとんど終わるので良かった」とく記録の負担が少ないと感じており、記録用紙を用いることで実習記録に感じる負担が軽減するとともに、手術室実習での学習を手術室内で完結することで術後の看護に関する学習に集中できる可能性が示唆された。

一方く用紙のサイズが使いづらい>、「たくさん書けない」ためく記入欄が狭い>、く術前の部分は記述しにくい>と記録用紙を【記述しにくい】と感じており、記録用紙の形態に対する思いを抱いていたことが考えられる。また「記録用紙を埋めることに集中してしまいそうになる」ためく記録に集中してしまう>、「感想欄が小さいので、発展的な内容まで気づけた人には窮屈かもしれない。」とく自発的な気づきが減る>や「見学することと実践することのはっきりした違いがわからなかった。」とく記録用紙に欠点を感じる>ように、記録用紙を使用する上での【デメリットを感じる】ことが明らかとなり、看護学生自らが自身の学習するための環境について考えている可能性が考えられる。これは、本調査で明らかとなった記録用紙に対して「他に興味があることを書くことができる場所を設けてほしかった。」とく記述欄がほしい>と希望することやく内容の追加を希望する>など【記録用紙への要望を抱いている】というカテゴリーからも支持できる。また先行研究において手術室見学実習では看護師の責任範囲において学生は看護師とともに実践に参加し、その実践の中で学生自身が意味を獲得していくという学習がなされている¹⁸⁾と述べられており、どのような環境においても看護学生は自らを学習するための意味づけを行っていることが推察できる。

以上をまとめると、く記述すべき内容が明確>でく記述しやすい>かつく記録の負担が少ない>という理由より【記述しやすい】と感じており、本記録用紙が視覚的に看護学生の学習すべき事柄が表現されていたツールであることが示唆された。一方【記述しにくい】という記録用紙の形態に対する思いを抱いていたことや記録用紙を使用する上で【デメリットを感じる】ことが明らかとなり、看護学生が学習するための環境について考えている可能性がある。またどのような環境においても看護学生は自らを学習するための意味づけを行っていることが推察できる。

以上をまとめると、く記述すべき内容が明確>でく記述しやすい>かつく記録の負担が少ない>という理由より【記述しやすい】と感じており、本記録用紙が視覚的に看護学生の学習すべき事柄が表現されていたツールであることが示唆された。一方【記述しにくい】という記録用紙の形態に対する思いを抱いていたことや記録用紙を使用する上で【デメリットを感じる】ことが明らかとなり、看護学生が学習するための環境について考えている可能性がある。またどのような環境においても看護学生は自らを学習するための意味づけを行っていることが推察できる。

3. 記録用紙の改訂と今後の課題

本調査では、手術室見学実習での看護学生の記録用紙の活用状況を明らかにするとともに、看護学生が感じた記録用紙を用いた実習の効果を調査した。本調査では、記録用紙を用いた実習は、調査対象者の96%が肯定的な回答があり、く記録用紙に欠点を感じる>という意見があるものの概ね記録用紙の内容に関して否定的な意見は見られなかった。しかしながら、記録用紙のく記入欄が狭い>ことやく用

手術室見学実習記録用紙を用いた学習効果

紙サイズが使いづらい>など記録用紙の形態に対するデメリットがあげられていた。筆者らは本調査の結果を受け、本記録用紙の内容をもとに、入室時から退室時までの流れと手術室での見学ポイントが一目で理解できるチェックリスト化した記録用紙(A4両面1枚)と、見学終了後に学びを振り返る

記録用紙(A4片面1枚)の2部構成に改訂をすることとした(図1)。看護学生の意見を反映させた改訂した記録用紙を用いることで、学習の向上が図れる可能性がある。今後の課題として、改訂した記録用紙に関する看護学生の活用状況および記録用紙を用いた実習が看護学生に及ぼす効果を客観的に測

手術室見学実習記録用紙																									
<p>□: 看護師と一緒に実施してみよう (状況によって見学になる場合もあり) ○: 看護師が実施していることを見学してみよう ☆: 手術の進行状況などを見ているときに担当看護師さんに質問してみよう * : 手術室実習学習をする上での参考にしよう 下記のポイントの理解を深めてから、手術室実習学習にのぞみましょう。</p>																									
手術室見学実習目標:	実習日:																								
術式:																									
学生氏名: (病種)	担当手術室看護師氏名:																								
<p>術前</p> <p>○ 術前説明 (手術室、TV) を見学しよう □ 手術に対する敬意、挨拶の確認しよう □ 術前のバイタルサインを測定しよう</p> <p>- 体温 [] ℃ - 脈拍 [] 回分 - 血圧 [/] mmHg - SpO₂ [] %</p> <p>○ 手術室入室</p> <p>□ 患者さんの状態をしよう</p> <p><病棟看護師と手術室看護師の申し送り> ○ 患者確認、手術部位の確認しよう ・リストバンド確認 ・手術部位確認 ・患者自身によるフルネームの確認</p> <p>○ 同僚看護師の確認をしよう ・顔面消毒、手術前消毒 ・輸血同意書、血液製剤同意書</p> <p><入室時の分動> □ 患者の分動をしよう □ 不安を軽減できるような声かけをしよう</p> <p><モニター装着> □ モニター装着をしてみよう ・心電図モニター ・マンモグラフィ (乳腺撮影機) ・パルスオキシメーター</p> <p>☆ 医師や看護師と患者さんに対して行っている処置について担当看護師さんに質問してみよう</p>	<p>術中</p> <p>□ モニターでバイタルサインを観望しよう</p> <p>- 脈拍 [] 回分 - 血圧 [/] mmHg - SpO₂ [] %</p> <p><術前> □ 患者さんの表情を観望しよう 患者さんの痛訴方法をこまめにつけよう</p> <p>○ 手術体位</p> <p>□ 手術体位 []</p> <p>○ 全身麻酔</p> <p>□ 麻酔開始時間 [] □ 麻酔終了時間 [] □ 吸入麻酔薬 [] □ 静脈麻酔薬 []</p> <p>全身麻酔化 (入室後)</p> <p>一呼吸器管理 一呼吸器管理 一呼吸器管理 (気管挿入) 一呼吸器管理 (気管挿入)</p> <p>□ 呼吸器で肺の音を聞いてみよう</p> <p><全身麻酔時の4要素> 患者さんの状態に注意をしよう</p> <p>○ 顔面 → 痛みを除去する ○ 顔面 → 意識レベルを下げて手術を安全に行えるように観察を続ける ○ 顔面 → 呼吸を維持する</p> <p>○ 顔面反射の抑制</p> <p>□ 顔面反射の抑制 (薬品)</p> <p>□ 顔面反射の抑制 (薬品)</p>																								
<p>○ 手術終了後、手術室を退出しよう</p> <p><術中の状態の観察> □ モニターでバイタルサインを観望しよう □ 手術チームをみてみよう バイタルサインは? * 使用している薬剤は? * 輸血量は? 出血量は? 尿量は?</p> <p>☆ 外科的処置の開始の早急後退の両面や工夫の観察を担当看護師さんに質問してみよう</p> <p><出血量測定> □ 看護師さんと一緒に出血量の測定をしよう</p> <p><体位、皮膚状態の観察> □ 看護師さんと一緒に体位、皮膚状態の観察をしよう ☆ 皮膚、神経麻酔の予防的処置を担当看護師さんに質問してみよう</p> <p><体内感染予防、術中の安全の取り組み> ○ 手術感染予防の取り組みを覚悟しよう ・ガゼ、紗、薬液などカウント ・前後のレントゲン確認 ☆ 手術感染予防の発生率を低下させるための対策をどのように行っているか担当看護師さんに質問してみよう</p> <p><バイタルサイン> □ バイタルサインを観望しよう 体温 [] ℃ 脈拍 [] 回分 呼吸数 [] 回分 血圧 [/] mmHg SpO₂ [] %</p> <p>□ 患者さんにおきぐらひの意見をかけよう □ 看護師さんや医師たちにも患者さんをベト移動させよう</p>	<p>手術終了～退室</p> <p>○ タイムアウトを受講しよう</p> <p><入室時> 挿入物を記録しよう</p> <p>- 前面 - - 後面 -</p> <p>□ 手術終了後、手術室を退出しよう</p> <p><術後の処置管理> 術後の処置管理の方法に留意しよう</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> <th>回数</th> <th>投与速度</th> </tr> <tr> <td>○</td> <td>麻酔薬</td> <td>[]</td> <td>[]</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>輸血薬</td> <td>[]</td> <td>[]</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>点滴</td> <td>[]</td> <td>[]</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>点滴</td> <td>[]</td> <td>[]</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>点滴</td> <td>[]</td> <td>[]</td> </tr> </table> <p>□ 手術室退室時、手術室を退出しよう</p> <p><退室時> □ 手術室退室の確認をしよう ・ 呼吸状態、呼吸反応、顔面、四肢、瞳孔、尿量、尿意</p> <p>□ バイタルサインを観望しよう 体温 [] ℃ 脈拍 [] 回分 呼吸数 [] 回分 血圧 [/] mmHg SpO₂ [] %</p> <p>□ 患者さんにおきぐらひの意見をかけよう □ 看護師さんや医師たちにも患者さんをベト移動させよう</p>	項目	内容	回数	投与速度	○	麻酔薬	[]	[]	○	輸血薬	[]	[]	○	点滴	[]	[]	○	点滴	[]	[]	○	点滴	[]	[]
項目	内容	回数	投与速度																						
○	麻酔薬	[]	[]																						
○	輸血薬	[]	[]																						
○	点滴	[]	[]																						
○	点滴	[]	[]																						
○	点滴	[]	[]																						
Memo																									

手術室見学実習振り返り、以下の項目をまとめよう。	
学生氏名: (病種)	実習日:
1. 手術中の患者さんが置かれている状況とその状況下で必要な援助について述べよう。	
2. 手術室看護師が患者さんに提供した印象的な援助を1つあげ、その援助の看護の意味について述べよう。	
3. 手術室見学実習を通して、受け持ち患者に対し術後どのような看護援助を提供する必要があるか述べよう。	
4. 手術室における患者さんの安全を守るためのチーム連携について述べよう。	
5. 手術室見学実習の学びについて述べよう。	
手術室見学実習指導者からのコメント	
サイン	

図1 手術室見学実習記録用紙の改訂版
 筆者らが本調査の結果を受け、本記録用紙を改訂したものである。

定することで、よりよい手術室での実習を検討するための基礎的資料となると考える。

謝辞 本記録用紙の作成にあたり、挿絵を提供下さった昭和大学病院 中央手術室 大坪佳奈 看護師に感謝いたします。

利益相反

本研究に関して、開示すべき利益相反はない。

文 献

- 1) 文部科学省. いま、専門職看護の真化が問われる「新たな看護のあり方に関する検討会」報告書を読み解く 大学における看護実践能力の育成の充実に向けて 平成14年3月26日. 看護. 2003;55:145-165.
- 2) 中澤洋子, 立石和子, 原谷珠美, ほか. 成人看護学実習前後の学生の変化に関する研究 「不安」「看護過程展開」「コンピテンシー」を中心に. 北海道文教大研紀. 2012;36:127-136.
- 3) 明石恵子. 急性期(周手術期)看護実習の“困難”をどう乗り越えるか. 看護展望. 2001;26:1201-1206.
- 4) 千田寛子, 堀越政孝, 武居明美, ほか. 成人看護学実習における看護学生の抱える困難感の分析. 群馬保健紀. 2012;32:15-22.
- 5) 溝部佳代, 鷺見尚己, 武藤眞佐子. 周手術期看護学実習における手術室実習の有効性 学生の手術室看護に関する学びと態度の変化より. 看科研会誌. 2007;10:3-14.
- 6) 板東孝枝, 雄西智恵美, 今井芳枝, ほか. 手術患者を対象とした成人看護学実習における手術室での学生の学習経験. 日看教会誌. 2012;22:13-25.
- 7) 北村直子, 奥村美奈子, 兼松恵子, ほか. 手術室実習を通しての学生の学び 第2報 学生が捉えた手術室で行われていた看護. 岐阜看護大紀. 2004;4:92-98.
- 8) 大滝 周, 大木友美, 加藤祥子. 看護学生が手術室見学実習を意図的に臨むための教育的試み: 第1報 手術室見学実習記録用紙の作成過程. 昭和学士会誌. 2017;76:451-458.
- 9) 小澤尚子, 原島利恵. 手術室看護師が経験した手術室実習の困難感と期待. 岩手大看紀. 2015;17:13-23.
- 10) 大滝 周, 大木友美, 加藤祥子. 看護学生の手術室見学実習を効果的に実施するための教育的試み<第1報> 手術室入室から退室までの支援を理解するための資料の作成過程. 昭和大保健医療学誌. 2014;12:117-124.
- 11) 砂賀道子, 石田順子, 石田康子. 成人看護学実習Iにおける手術室見学の実態と教育的サポートに関する研究. 高崎健福大紀. 2012;11:111-121.
- 12) 米田弥里, 遠藤典子, 堀田牧代, ほか. 手術室に来る看護学生の効果的な指導の取り組み 臨床指導者としての役割. 日手術看会誌. 2012; 8:45-47.
- 13) 深澤佳代子. 看護基礎教育における手術室実習の動向 公立看護系大学の实態調査より. オペナーシング. 2006;21:208-214.
- 14) 堀越政孝, 辻村弘美, 恩幣宏美. 手術室見学実習における学びの内容 術中レポートの分析. 群馬保健紀. 2010;30:67-75.
- 15) 石田順子, 砂賀道子, 星野泰栄. 成人看護学実習Iにおける手術室実習前後の不安に関する研究. 高崎健福大紀. 2012;11:81-90.
- 16) 大滝 周, 大木友美, 加藤祥子. 看護学生の手術室見学実習を効果的に実施するための教育的試み<第2報> 手術室実習資料「手術室入室から退室まで」の活用の効果について. 昭和大保健医療学誌. 2014;12:28-36.
- 17) 大滝 周, 大木友美, 加藤祥子. 看護学生の手術室見学実習を意図的に臨むための教育的試み: 第2報. 昭和学士会誌. 2017;7:423-433.
- 18) 大谷則子, 堀之内若名, 中井裕子, ほか. 手術室見学実習における学び 二つの実習形態の比較検討による考察. オペナーシング. 2006; 21:662-672.

AN EDUCATIONAL TRIAL TO CARRY OUT THE OPERATING
ROOM PRACTICE OF NURSING STUDENTS: PART III
— EFFECTS OF OPERATING ROOM PRACTICE OF
NURSING STUDENTS USING “OPERATING ROOM
PRACTICE RECORDING PAPER” —

Amane OTAKI, Tomomi OHKI and Ayaka HAGIWARA

Department of Nursing, Showa University School of Nursing and Rehabilitation Sciences

Abstract — It has been reported that operating room practice is effective for nursing students to understand patients undergoing surgery. However, for such operating room practice for nursing students the following points must be resolved: 1) nursing students cannot clarify the point of view of learning by operating room practice, and 2) it is difficult for nurses to understand the explanation of the study content. We created and introduced “operating room practice recording paper” to carry out the operating room practice of nursing students. The aim of this study was to assess the situation of nursing practice using the “operating room practice recording paper” and to evaluate the effect of the use of recording paper for nursing students’ study. We conducted a survey on the practice of using “operating room practice recording paper” for 106 nursing students. The data was analyzed by simple tabulation and qualitative analysis. This research was approved by the ethics committee which is the organization to which the authors belong (No. 214). We obtained responses from 77 nursing students (response rate 73%). The results of this study clarified the following: 96% of nursing students answered [very easy to use] or [easy to use], and the nursing students felt that it was positive to use the recording paper. Further, we extracted 190 codes, 35 sub-categories, and 11 categories from the words obtained in the description about the practice of using recording paper. Regarding the effect of the use of recording paper for nursing students’ study the following were identified: “The nursing student’s assessment of the effect”, “The nursing student’s impression of the merit and demerit of the recording paper” and “The nursing student’s impression of the operating room environment”.

Key words: perioperative practice, operating room practice, nursing students, recording paper

[受付: 12月21日, 2017, 受理: 2月17日, 2018]